

兵庫県  
保険医協会

明石支部  
ニュース



No. 328  
2023・1・25  
投稿歓迎!

兵庫県保険医協会 明石支部  
支部長 吉岡 巖  
神戸市中央区海岸通一丁目二番二号  
神戸フコク生命海岸ビル五階  
TEL 078-393-1801

### 年頭にあたって

明石支部支部長 吉岡 巖

明けましておめでとうございます。

二〇年一月に我が国では初めて発症した新型コロナウイルスは、はや四年目に入る今日も一向に終息の兆しは見られませんが、医療機関は、今年も新型コロナウイルスに振り回されることを覚悟しなければならぬと思っています。

昨年から続く物価高、特に水光熱費、食料品の値上がりは医療機関の財政を圧迫し職員の生活を守る給与アップ等に取り組めない状況を生み出しています。

多くの医療団体が診療報酬の緊急是正等を要求していますが、政府には届いていないようで怒りを覚えます。

政府は、物価高を生かして経済の好循環につなげるためには「賃上げ」が必要と経団連等に働きかけていますが、中小企業等には「賃上げ」出来る体力はありません。中小零細企業である医療機関の収入は、診療報酬で規定されているので、そこを動かして改善いただかなければ、職員の給与引き上げにはつながりません。

また、「オンライン資格確認」の義務化と「保険証廃止」が強行されようとし医療機関だけでなく、多くの市民を困惑させています。

マイナンバーカードを用いたオンライン資格確認は、

行政の準備不足もあり数ヶ月延期せざるを得なくなりましたが「義務化」は依然として取り除かれていません。

マイナンバーカードの普及が進まないうちで、急遽「保険証」を廃止しマイ

ナンバーカードを「保険証」代わりにする方針が、さしたる議論もなく生煮えの状態で提示されたため、混乱を引き起こしています。

さらに「電子処方箋」なるものもスタートしましたが、この処方箋を作成する機器がほとんどない状況で、実施は停滞しています。

協会は、医療情報の電子化等には、基本的には反対ではありません。マイナンバーカードを用いた預金口座情報など様々な個人情報との紐づけと情報漏洩への危惧、万が一漏洩した場合の責任を医療機関と患者に押し付ける国の無責任さへの不信感、保険証廃止方針に対する危惧など、しっかりと時間をかけて検討すべきことが多くあります。そのうえで十分に説明をし、同意を得て、十分な準備期間をおいて実行すべきと考えます。

個別医療機関は当面厳しさに耐えながら新型コロナウイルス診療に当たらなければなりません。

兵庫県保険医協会は、よりよい医療が実施でき、医療機関と医療従事者の生活が守れるように改善運動にひきつづき邁進していく所存です。

今年もよろしくお願いたします。



大切な歯科医療を守るために

## 「保険でより良い歯科医療を求める」署名にご協力ください

### 【請願項目】

- お金の心配をせず、安心して歯科医療が受けられるよう、窓口負担割合を下げてください
- 健康保険で受けられる歯科医療の範囲を広げてください
- 歯科医療の充実に必要な国の予算を大幅に増やしてください

◎署名用紙、署名ハガキ付きポケットティッシュのご注文は、協会歯科部会 TEL078-393-1809までお電話下さい。

みんなの願い

## 保険でより良い 歯科医療の実現を



いつでも、どこでも、だれもが、お金の心配なく歯科治療が受けられるために

## 第39回明石支部総会

### 「お終活 熟春！人生、百年時代の過ごし方」映画上映会に124人参加

明石支部は12月11日に第39回支部総会を子午線ホールで開催した。記念企画「お終活 熟春！人生、百年時代の過ごし方」映画上映は、会員、市民124人の参加で成功した。吉岡巖支部長の挨拶に続き、西山裕康理事長による上映前のミニ講演「これからどうなる医療と介護」もわかりやすいと好評、終了後に参加者の署名協力が得られた。



冒頭開会あいさつをする吉岡巖支部長(写真上)。「コロナだけでなく患者負担増での受診控えによる健康悪化は避けねばならない」と強調する西山裕康理事長(写真左)

#### 12/25 “年越し助け合い村”に60人

明石社保協が参加する助け合い村実行委員会主催の第4回「助け合い村」が12/25に西新町1丁目公園で開催され、子ども連れの母子や学生、高齢の方々など、神戸新聞にも掲載され参加は60人。お米や日用品等の寄付や、農家から大根やキャベツの差し入れもあり、温かい豚汁やおにぎり、コーヒーも無料で振舞われた。「物価高騰が続き益々生活が苦しくトイレットペーパーやお米はとても助かる」「これで年が越せる」と喜ばれた。深刻な病気の方もおられ我慢せず受診を勧めるケースもあった。



開始前から受付待ちの列も

- 「お終活 熟春！人生、百年時代の過ごし方」映画 参加者感想
- ◇ホロッとして楽しい映画だった。この映画を観る機会を作ってくださいありがとうございます。(50歳代)
  - ◇知人に誘われ参加。数年で金婚式だが考えさせられる映画だった。(60歳代)
  - ◇とても良い映画でした。身につまされました。(50歳代)
  - ◇亡くなった時の手続きの書類の多さにびっくりしました。(50歳代)
  - ◇「男は解決を優先、女は共感を優先」「誇りとは愛、愛とは許すこと」など名言が心に残りました。(60歳代)
  - ◇人生100年に向かっている考え方、参考になりました。(70歳代)
  - ◇夫婦で話し合う時間を持ちたいと感じました。(70歳代)
  - ◇不安が大きくなるばかり。防衛費はどんどん増やすのに、必死で生きている庶民の為に税金を使ってほしい。(50歳代)
  - ◇医療と介護は負担が重い。無料になればいいですね。(70歳代)
  - ◇ご講演は大変勉強になりました。軍費用に多額の予算を計上できるのに、なぜもっと医療に回せないのか。(70歳代)
  - ◇普段知りえない情報をお教えいただきありがとうございます。(60歳代)
  - ◇若者には若者の生活があり、年寄りも負担する必要がある。(70歳代)
  - ◇10月から医療費負担が1割から2割になり、おまけに保険料も上げるといふニュースもあった。通院を減らさないとと思うが不安だ。岸田さん許せない。(70歳代)



**映画あらすじ** (2021年 © 「お終活」製作委員会)  
熟年夫婦の騒動を「ミカル」に描いたドラマ。結婚50年を迎える大原夫妻。定年退職した夫の真一が家にすつこと、妻の千賀子は夫在宅ストレス症に陥っていた。趣味仲間にお互いの愚痴を言い合う2人は熟年離婚寸前となっていた。そんな中、娘の亜矢から終活フェアへの参加を勧められた千賀子はフェアに足を運び、前向きに今後のことを考えようとするが、真一は「縁起でもない」と嫌がり、夫婦に新たな危機が生まれてしまう。葬儀社の菅野役を「BOYS AND MEN」のリーダーの水野勝、真一と千賀子夫妻役を橋爪功、高畑淳子、娘の亜矢役を剛力彩芽がそれぞれ演じる。